

# 中小企業景況調査報告書

2021年 7月～9月期 実績

( 2021年 10月～12月期 予測 )

調査実施時点 : 2021年9月1日

京都府商工会連合会

## 《 目 次 》

1. 中小企業景況調査の概要	2 頁
2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】	3 ~ 4 頁
3. 各業種の景況	
(1) 製造業の景況	5 ~ 6 頁
(2) 建設業の景況	7 ~ 8 頁
(3) 小売業の景況	9 ~ 10 頁
(4) サービス業の景況	11 ~ 12 頁
4. 自社の業況判断について感じている事 (調査対象企業の声)	13 ~ 16 頁

### D・I とは (景気動向指数)

この報告書の中で用いている「**D・I 指数**」とは、ディフュージョン・インデックスの略で、企業経営者の景気の波及度合いを表す指標として、利用されています。

#### 《算出方法》

前年同期に比べて、

$$\frac{\text{『増加』回答企業の割合}}{\text{(上昇・好転等)}} - \frac{\text{『減少』回答企業の割合}}{\text{(低下・悪化等)}} = \text{D・I}$$

D・I が、**プラス (+)** 値 …… 強気 (楽観) を表す。

D・I が、**マイナス (-)** 値 …… 弱気 (悲観) を表す。

例えば、売上が前年同期比で、

『増加』回答企業 50%、『不変』回答企業 30%、『減少』回答企業 20% の場合、

$$\text{D・I 指数は、} \quad 50\% - 20\% = 30\%$$

となり、経営者の売上に対する業況観が、強気気運であることを表しています。

# 1. 中小企業景況調査の概要

この調査は、商工会地域の産業の状況、地域の経済動向等について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速かつ的確に収集把握して、経営改善普及事業の効果的な指導資料にするために、全国商工会連合会が実施する調査に連携し、府内の状況を取りまとめたものです。

調査要領、本年度の調査対象商工会及び、調査回答企業数・対象業種別構成の内訳は次のとおりです。

## (1) 調査対象期間

2021年7月～9月期を対象とした。

調査実施時点 …… 9月1日(水)

調査期間 …… 8月23日(月) ～ 9月1日(水)

## (2) 調査の方法

(イ) 商工会の経営支援員の訪問による面接調査とした。

(ロ) 調査対象商工会の選定は、管内ごとの市町村人口を勘案し、又、調査対象企業の抽出は、各業種・規模等の有意抽出法とした。

## (3) 調査対象商工会

京丹後市商工会、与謝野町商工会、京丹波町商工会、南丹市商工会、向日市商工会、大山崎町商工会、井手町商工会、宇治田原町商工会、八幡市商工会、木津川市商工会、和束町商工会、長岡京市商工会、京田辺市商工会、久御山町商工会、笠置町商工会、精華町商工会、南山城村商工会、京北商工会、福知山市商工会、伊根町商工会

(計20商工会)

## (4) 対象業種別構成 及び 回答企業数

業種	調査対象企業数	構成比	回答企業数	回答率
製造業	35	19.4%	35	100.0%
建設業	24	13.3%	23	95.8%
小売業	51	28.3%	50	98.0%
サービス業	70	39.0%	70	100.0%
【合計】	180	100%	178	98.9%

## 2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

《概要》

### コロナ禍の先行き不透明の中で停滞する景況

新型コロナウイルスの感染防止策を実施しながらの事業活動により、今期の売上DIは全産業平均で対前期比19.1ポイントの悪化(前期▲8.8ポイント→今期▲27.9ポイント)となった。

内訳は、製造業が3.8ポイントの悪化(前期15.2ポイント→今期11.4ポイント)、建設業が34.1ポイントの悪化(前期▲8.7ポイント→今期▲42.8ポイント)、小売業が17.8ポイントの悪化(前期▲29.4ポイント→今期▲47.2ポイント)、サービス業が20.7ポイントの悪化(前期▲12.1ポイント→今期▲32.8ポイント)となった。

採算DIは、全産業平均で対前期比1.9ポイントの悪化(前期▲20.6ポイント→今期▲22.5ポイント)となり、内訳は、製造業が11.6ポイントの改善(前期▲5.7ポイント→今期5.9ポイント)、建設業が5.3ポイントの悪化(前期▲13.7ポイント→今期▲19.0ポイント)、小売業が13.9ポイントの悪化(前期▲31.4ポイント→今期▲45.3ポイント)、サービス業が変動なし(前期▲31.4ポイント→今期▲31.4ポイント)となった。





























来期の見通しとしては、売上DIが全産業平均で4.8ポイントの悪化(今期▲27.9ポイント→来期見通し▲32.7ポイント)、採算DIでは全産業平均で3.0ポイントの悪化(今期▲22.5ポイント→来期見通し▲25.5ポイント)となっている。

業種別景況指標(景気の天気図)では、製造業・建設業・サービス業が悪化、小売業はやや悪化となった。







採算の来期見通しは、製造業が25.9ポイントの悪化(今期5.9ポイント→来期見通し▲20.0ポイント)、建設業が5.3ポイントの改善(今期▲19.0ポイント→来期見通し▲13.7ポイント)、小売業が9.3ポイントの改善(今期▲45.3ポイント→来期見通し▲36.0ポイント)、サービス業が0.9ポイントの悪化(今期▲31.4ポイント→来期見通し▲32.3ポイント)となっている。

### 業種別景況指標 (景気の天気図)

※天気図は売上DI

	R2年			R3年			
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月(見通)
製造業							
建設業							
小売業							
サービス業							

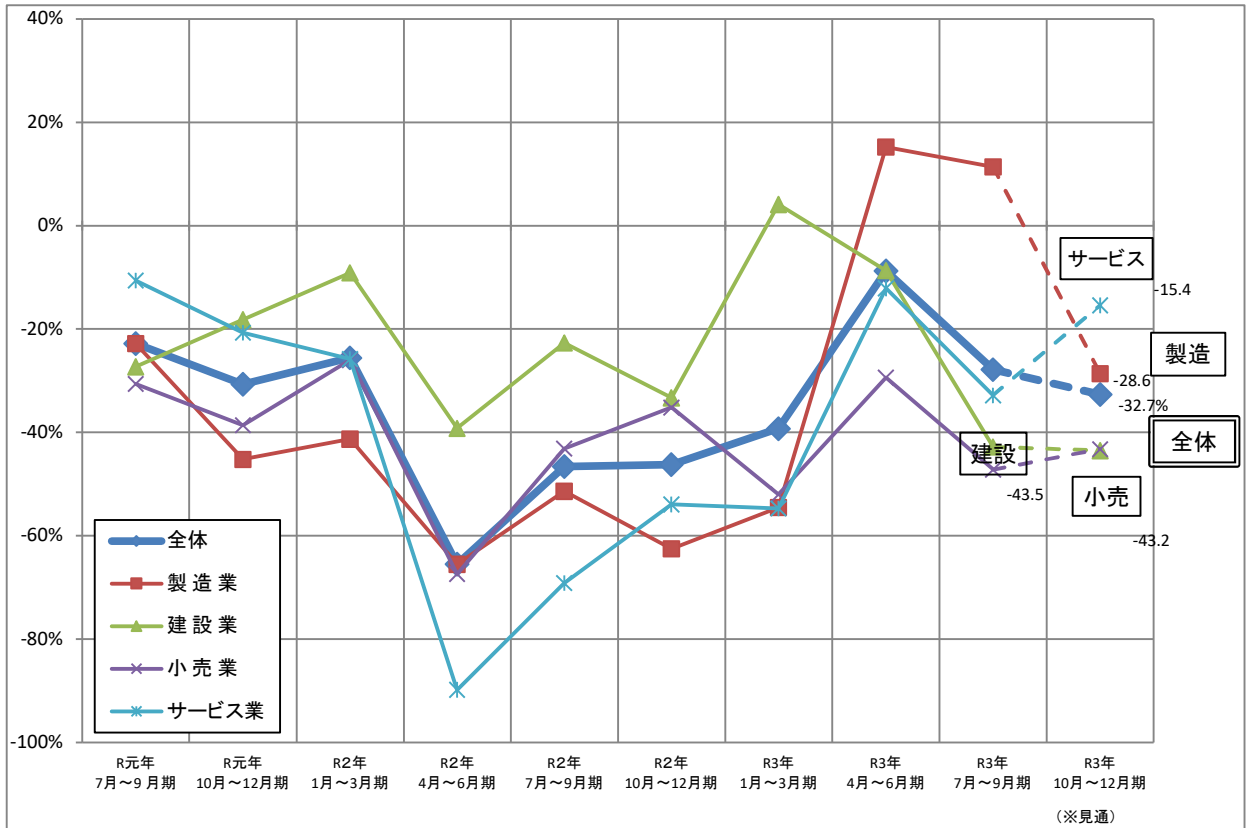
天気図のよみ方

D・I	100.0 ～50.1	50.0 ～25.1	25.0 ～0.1	0.0 ～▲25.0	▲25.1 ～▲50.0	▲50.1 ～▲100.0
指標						
内容	特に好転	好転	やや好転	やや悪化	悪化	特に悪化

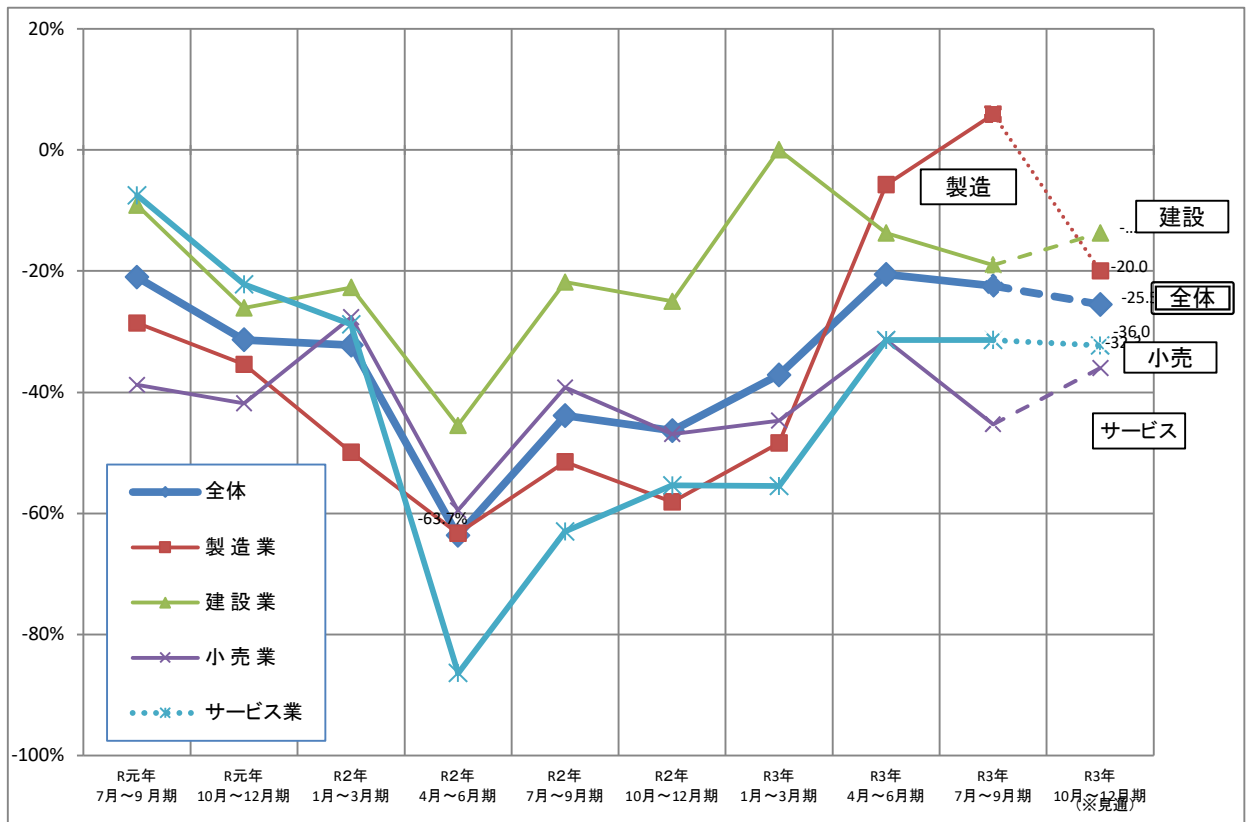
## 2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

### 《売上と採算の推移》

(1) 売上 D・I (景気動向指数) の推移 —前年同期比—



(2) 採算 D・I (景気動向指数) の推移 —前年同期比—

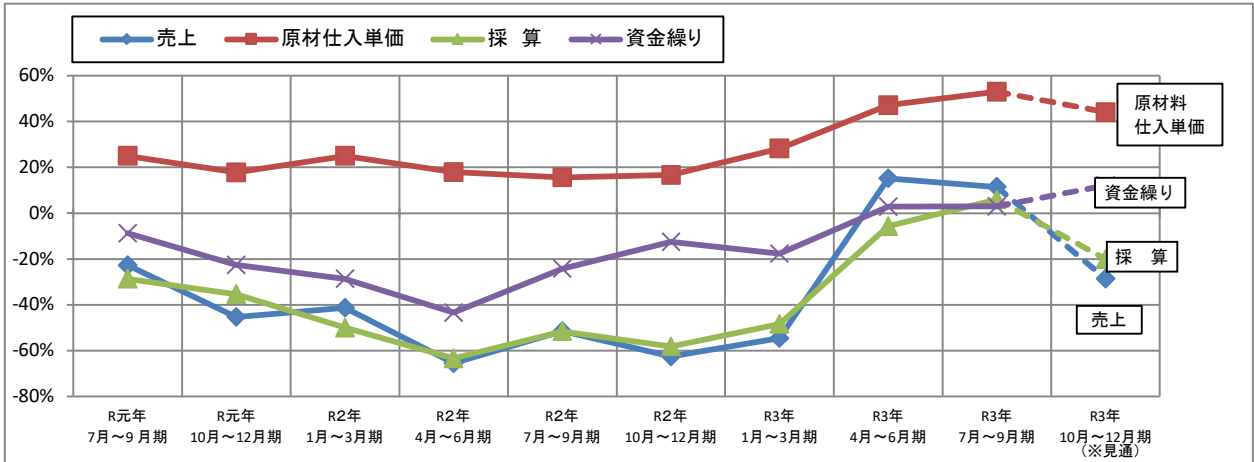


# 3. 各業種の景況

## (1) 製造業

### ① 製造業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 - 前年同期比 -

製造業	R2年		R3年			来期予測
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	R3年 10月～12月期
売上	▲ 51.4%	▲ 62.5%	▲ 54.5%	15.2%	11.4%	▲ 28.6%
原材仕入単価	15.6%	16.7%	28.2%	47.1%	53.0%	44.1%
採算	▲ 51.5%	▲ 58.1%	▲ 48.4%	▲ 5.7%	5.9%	▲ 20.0%
資金繰り	▲ 24.2%	▲ 12.5%	▲ 17.7%	2.9%	3.0%	12.1%



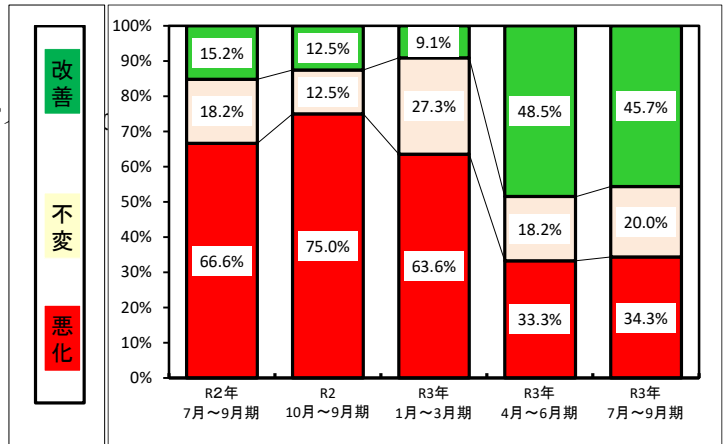
売上 …… 11.4 ポイント  
(前期比 3.8 ポイント悪化)

仕入単価 …… 53.0 ポイント  
(前期比 5.9 ポイント悪化)

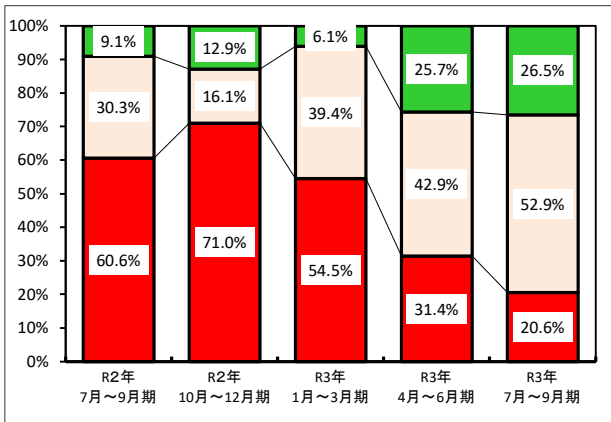
採算 …… 5.9 ポイント  
(前期比 11.6 ポイント改善)

資金繰り …… 3.0 ポイント  
(前期比 0.1 ポイント改善)

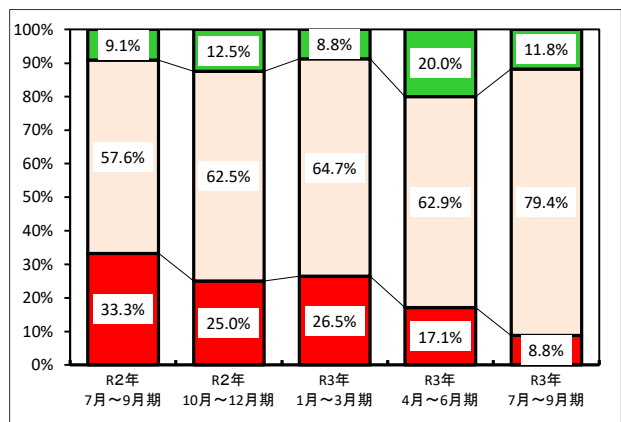
#### ※『売上(加工)』の状況 前年同期比 (D・I 値)



#### ※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



#### ※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



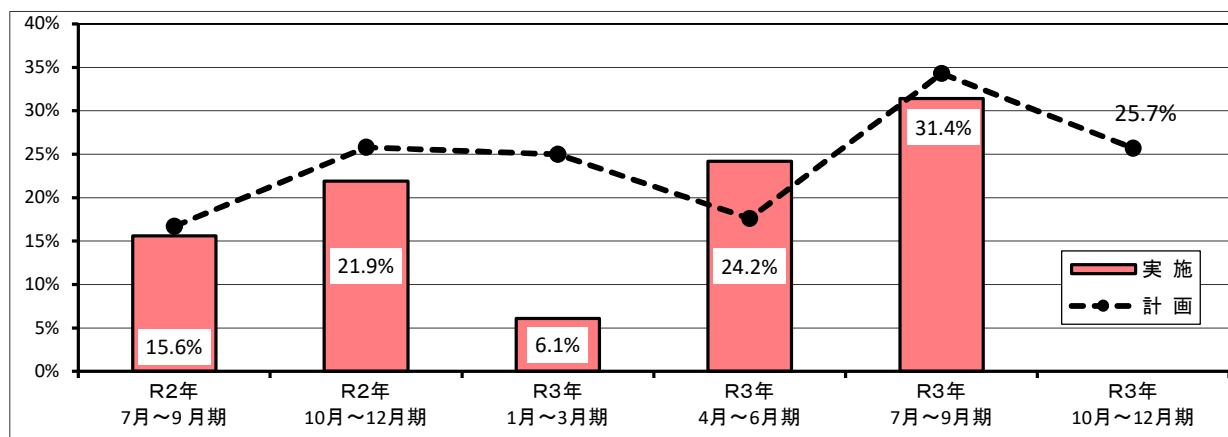
### 3. 各業種の景況

### (1) 製造業

② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

今期の設備投資の実施状況は、31.4%（前期比7.2ポイント改善）であった。

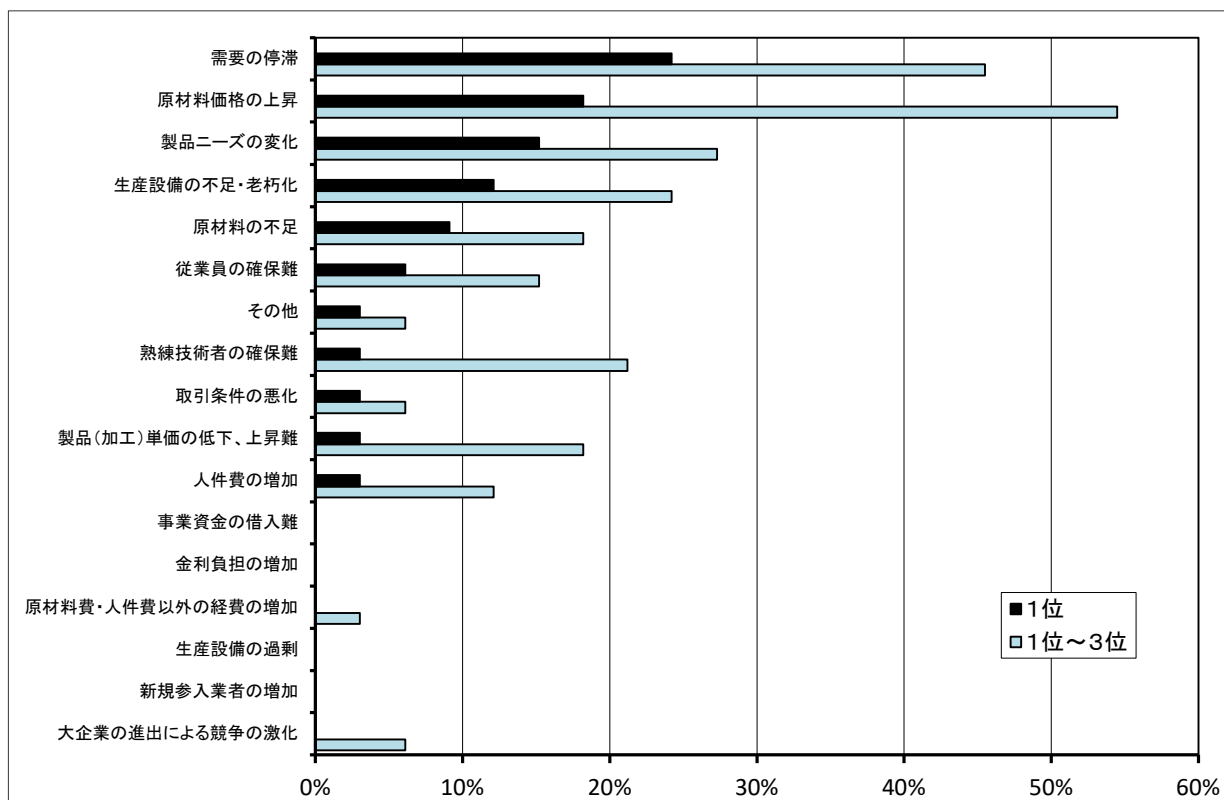
製造業	R2年		R3年			(計画)
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	R3年 10月～12月期
土地	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%
車両・運搬具	20.0%	14.3%	0.0%	25.0%	27.3%	11.1%
生産設備	80.0%	71.4%	100.0%	37.5%	72.7%	44.0%
設備投資の実施	15.6%	21.9%	6.1%	24.2%	31.4%	25.7%



③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「その他」「需要の停滞」「熟練技術者の確保難」が上位となった。

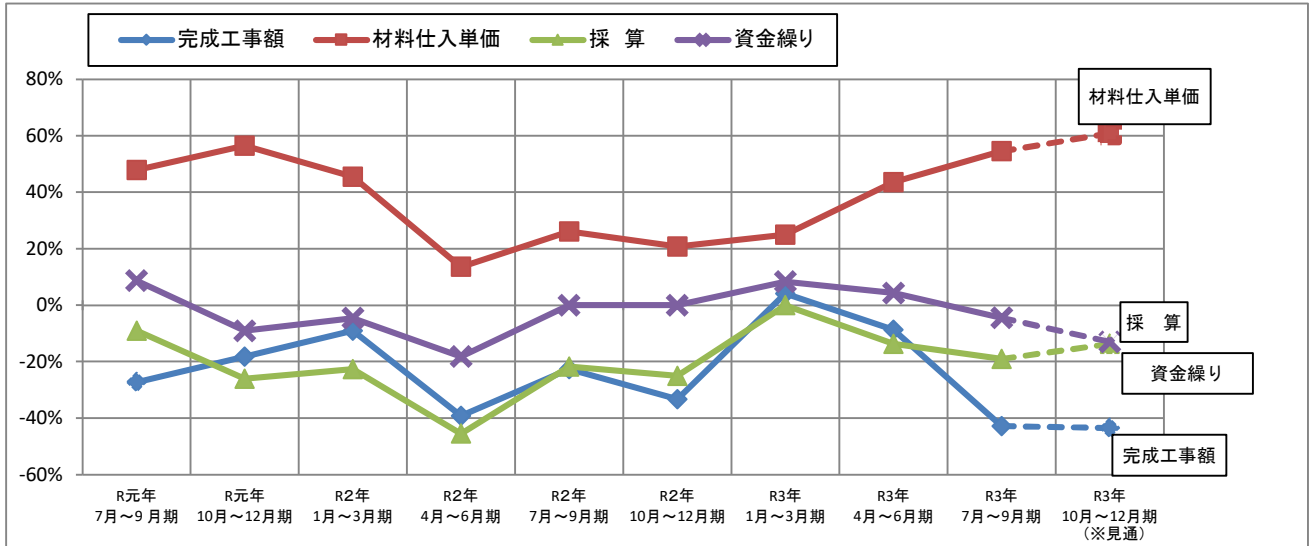


# 3. 各業種の景況

## (2) 建設業

① 建設業 D・I 値 (景気動向指数) の推移 —前年同期比—

建設業	R2年		R3年			来期予測
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	R3年 10月～12月期
完成工事額	▲ 22.7%	▲ 33.3%	4.1%	▲ 8.7%	▲ 42.8%	▲ 43.5%
材料仕入単価	26.1%	20.8%	25.0%	43.5%	54.5%	60.9%
採算	▲ 21.8%	▲ 25.0%	0.0%	▲ 13.7%	▲ 19.0%	▲ 13.7%
資金繰り	0.0%	0.0%	8.3%	4.3%	▲ 4.5%	▲ 13.0%



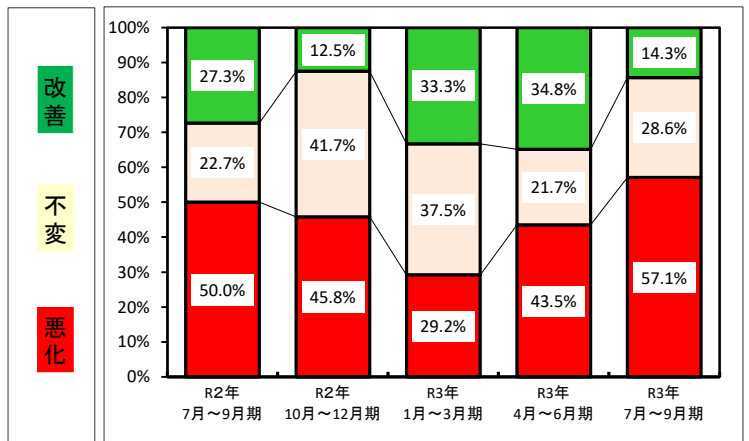
完成工事額 .. ▲ 42.8 ポイント  
(前期比 34.1 ポイント悪化)

仕入単価 ..... 54.5 ポイント  
(前期比 11.0 ポイント悪化)

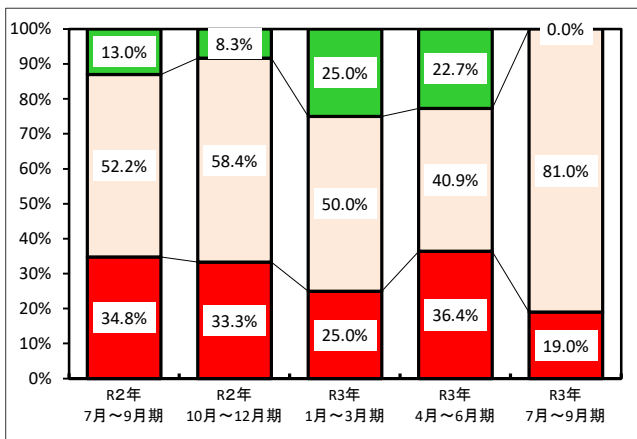
採算 ..... ▲ 19.0 ポイント  
(前期比 5.3 ポイント悪化)

資金繰り ..... ▲ 4.5 ポイント  
(前期比 8.8 ポイント悪化)

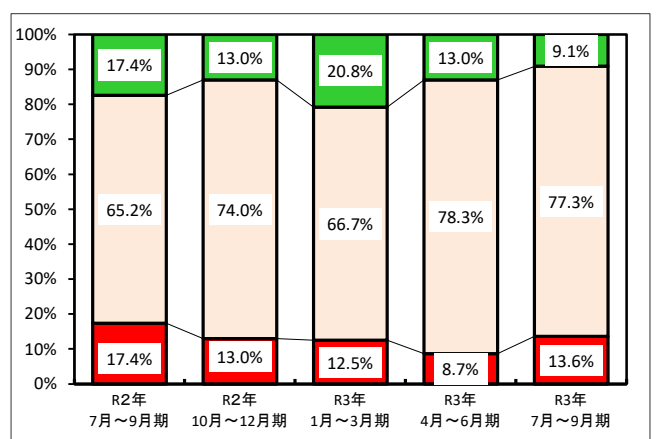
※『完成工事額』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



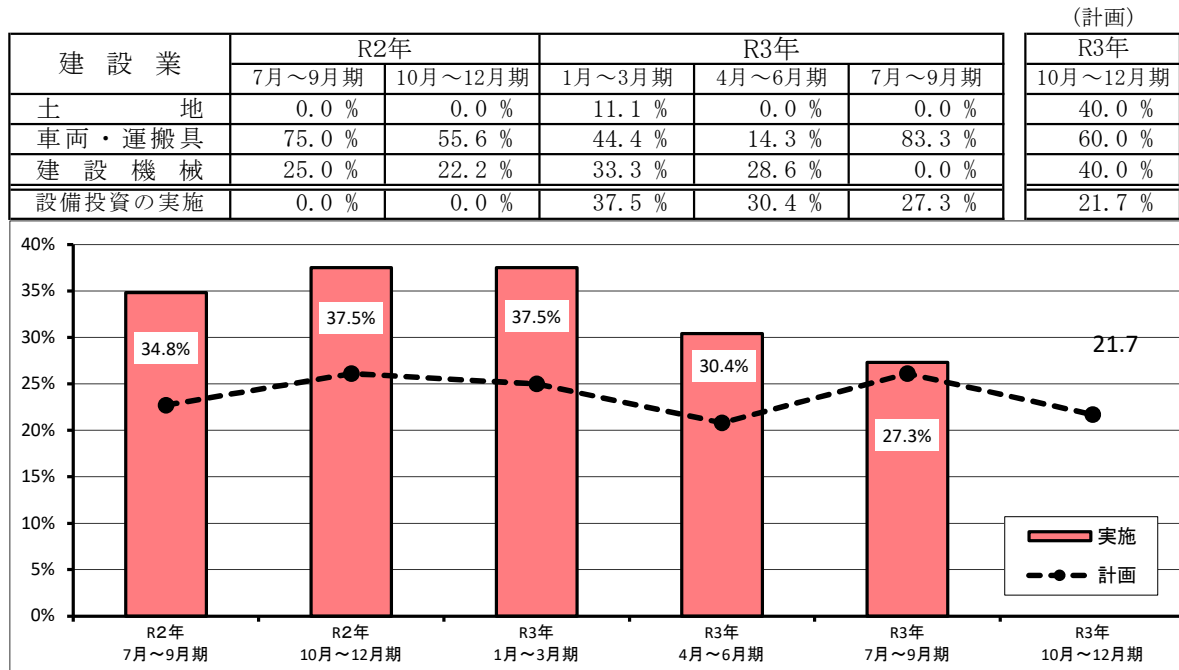


### 3. 各業種の景況

### (2) 建設業

② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

設備投資の実施状況は27.3%（前期比3.1ポイント悪化）であった。

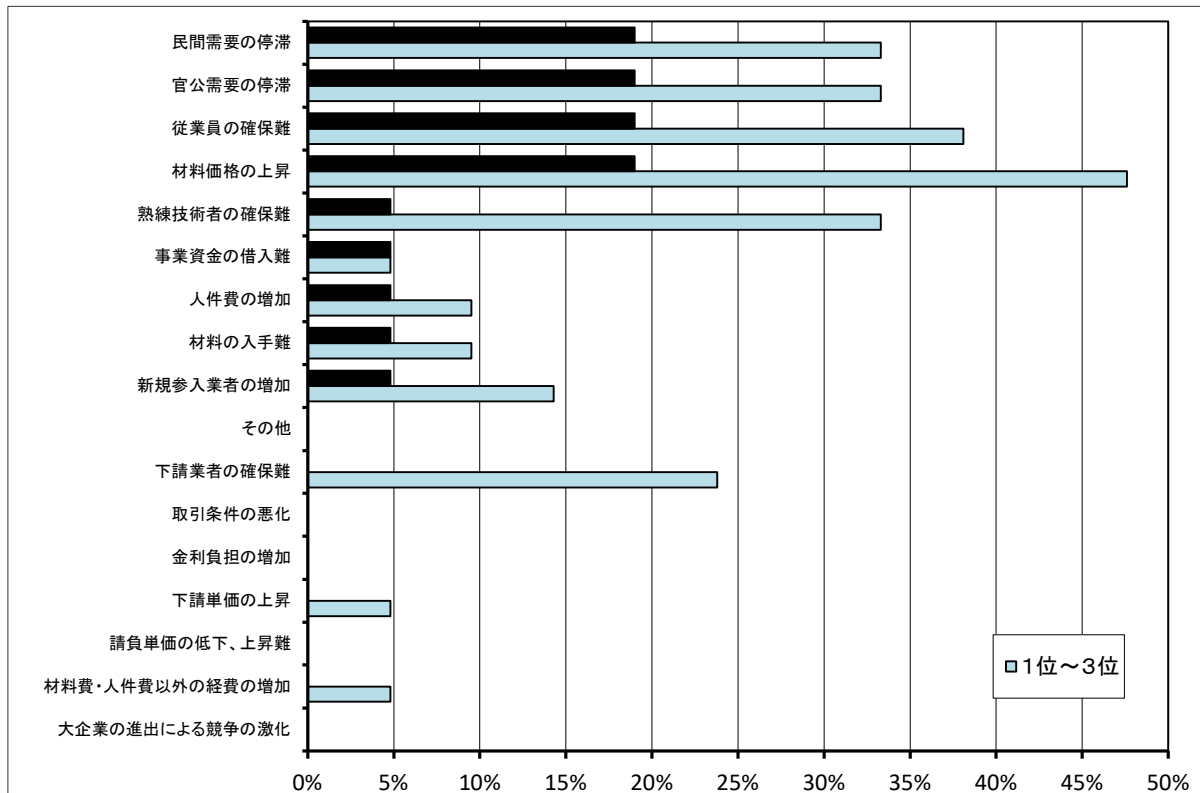


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※ グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「民間需要の停滞」「官公需の停滞」「従業員確保難」が上位を占めた。



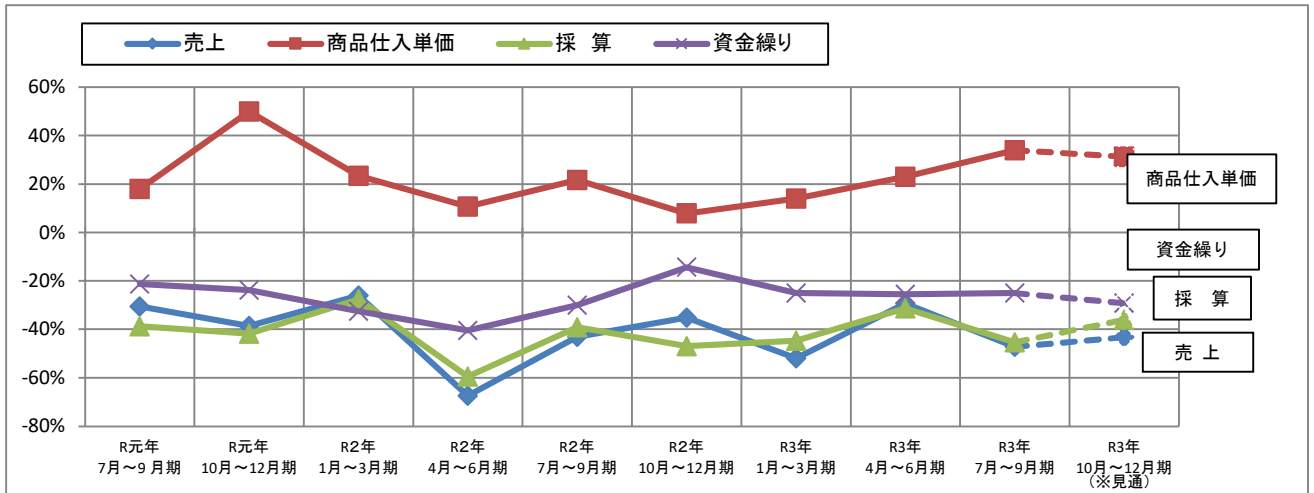
(注) 問題点の1位に挙げた企業の割合

# 3. 各業種の景況

## (3) 小売業

### ① 小売業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

小売業	R2年		R3年			来期予測
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	R3年 10月～12月期
売上	▲ 43.1%	▲ 35.2%	▲ 52.0%	▲ 29.4%	▲ 47.2%	▲ 43.2%
商品仕入単価	21.6%	7.9%	14.0%	23.0%	34.0%	31.3%
採算	▲ 39.2%	▲ 46.9%	▲ 44.7%	▲ 31.4%	▲ 45.3%	▲ 36.0%
資金繰り	▲ 30.0%	▲ 14.3%	▲ 25.0%	▲ 25.5%	▲ 25.0%	▲ 29.2%



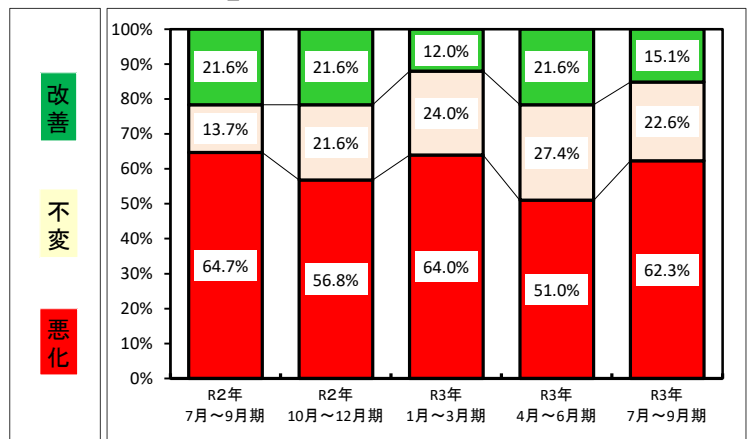
※『売上』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上 …… ▲ 47.2 ポイント  
(前期比 17.8 ポイント悪化)

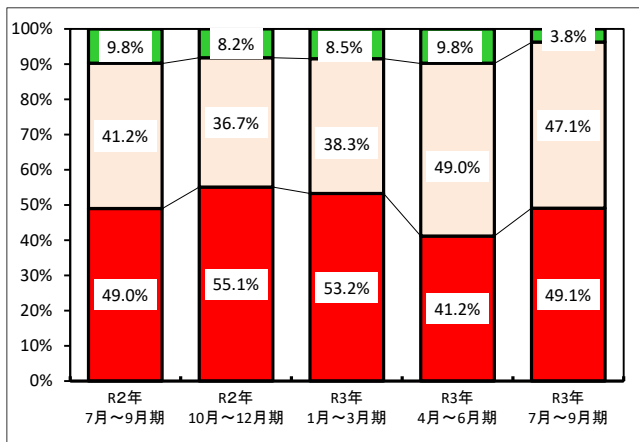
仕入単価 …… 34.0 ポイント  
(前期比 11.0 ポイント悪化)

採算 …… ▲ 45.3 ポイント  
(前期比 13.9 ポイント悪化)

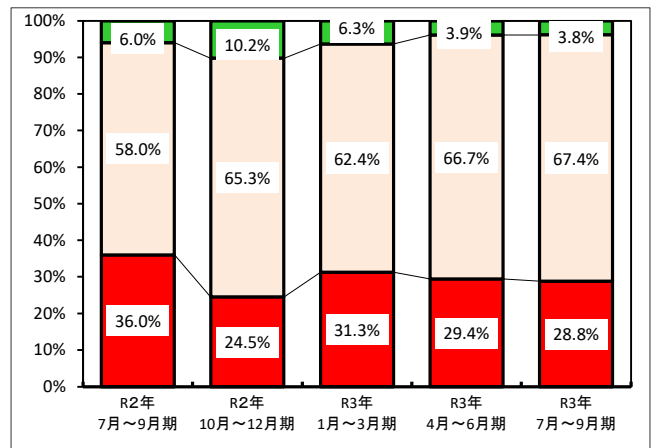
資金繰り …… ▲ 25.0 ポイント  
(前期比 0.5 ポイント改善)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



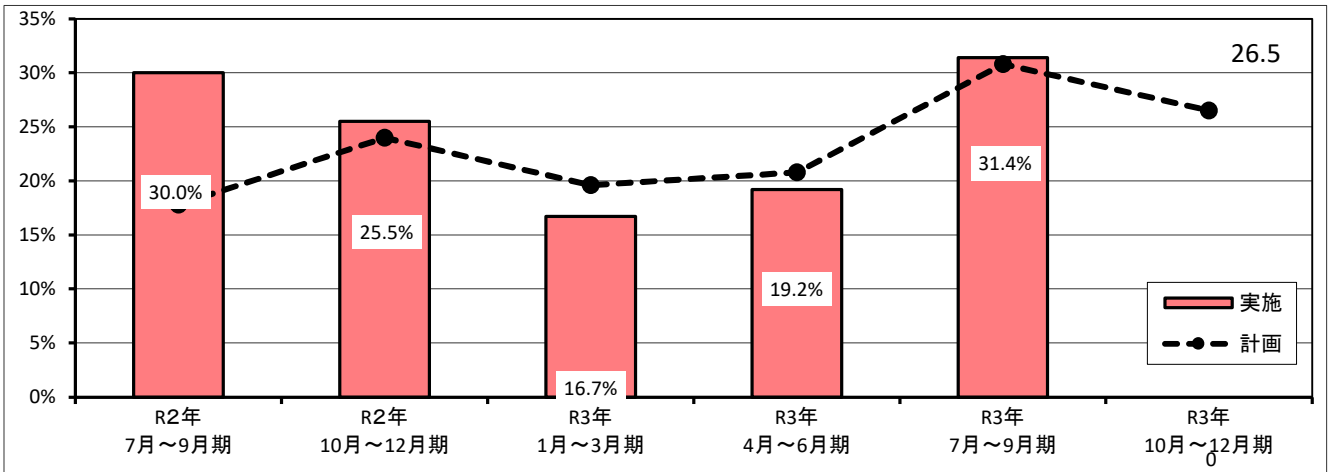
### 3. 各業種の景況

### (3) 小売業

#### ② 設備投資の状況(当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計)

設備投資を実施した企業数の割合は31.4%（前期比12.2ポイント改善）であった。

小売業	R2年		R3年			(計画) R3年
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	15.4%
車両・運搬具	0.0%	7.7%	25.0%	40.0%	18.8%	15.4%
販売設備	46.7%	30.8%	37.5%	50.0%	18.8%	38.5%
設備投資の実施	30.0%	25.5%	16.7%	19.2%	31.4%	26.5%

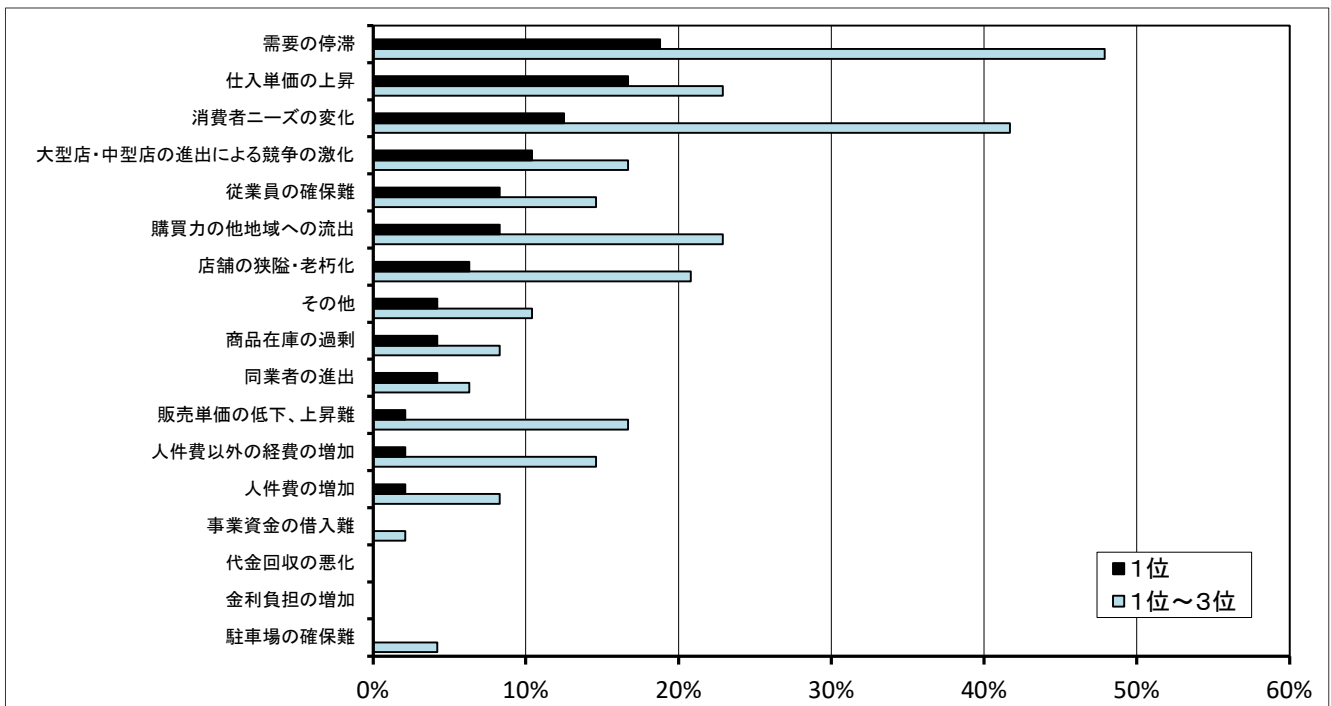


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

#### ③ 経営上の問題点

※ グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「需要の停滞」「仕入単価の上昇」「消費者ニーズの変化」が上位となった。



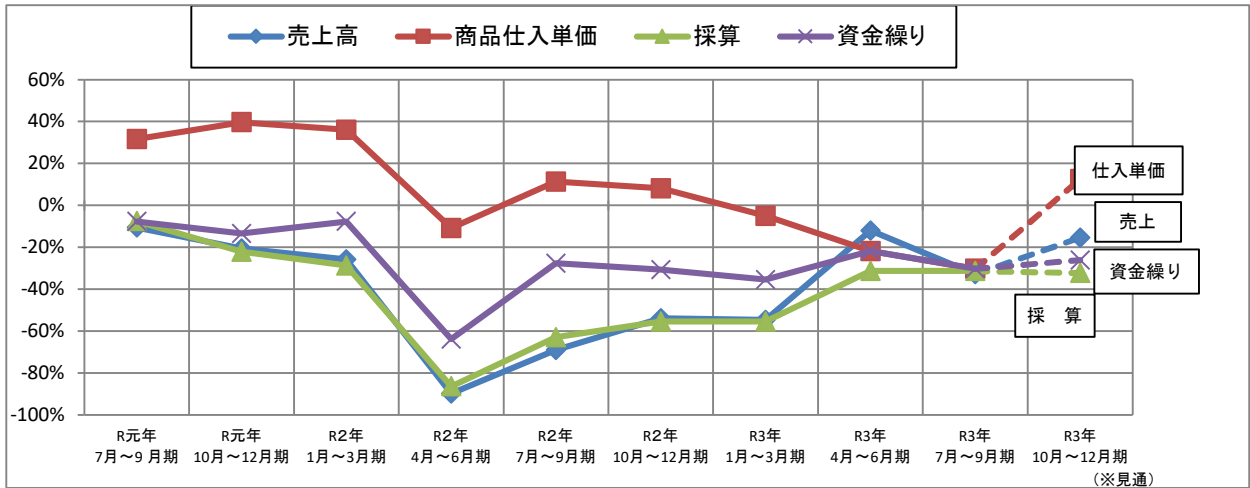
(注) 問題点の1位に挙げた企業の割合

# 3. 各業種の景況

## (4) サービス業

サービス業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 — 前年同期比 —

サービス業	R2年		R3年			来期予測
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	R3年 10月～12月期
売上	▲ 69.1 %	▲ 53.9 %	▲ 54.7 %	▲ 12.1 %	▲ 32.8 %	▲ 15.4 %
仕入単価	11.3 %	8.1 %	▲ 5.0 %	▲ 21.9 %	▲ 30.3 %	12.5 %
採算	▲ 63.0 %	▲ 55.4 %	▲ 55.5 %	▲ 31.4 %	▲ 31.4 %	▲ 32.3 %
資金繰り	▲ 27.7 %	▲ 30.7 %	▲ 35.5 %	▲ 21.9 %	▲ 30.3 %	▲ 26.1 %



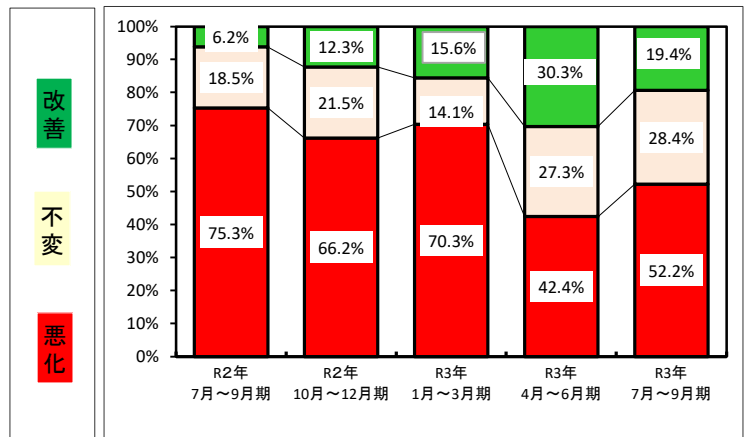
※『売上(収入)』の状況 前年同期比 (D・I 値)

売上・・・ ▲ 32.8 ポイント  
(前期比 20.7 ポイント悪化)

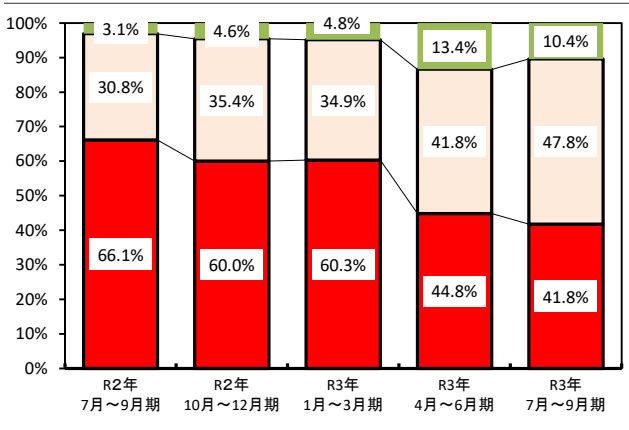
仕入単価・・・ ▲ 30.3 ポイント  
(前期比 8.4 ポイント改善)

採算・・・ ▲ 31.4 ポイント  
(前期比 0.0 変動なし)

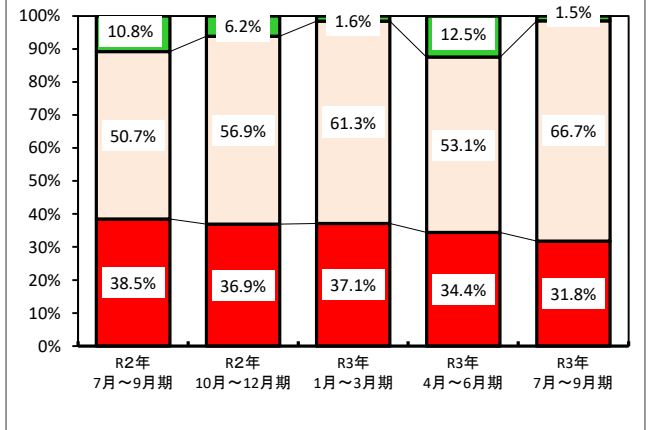
資金繰り・・・ ▲ 30.3 ポイント  
(前期比 8.4 ポイント悪化)



『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



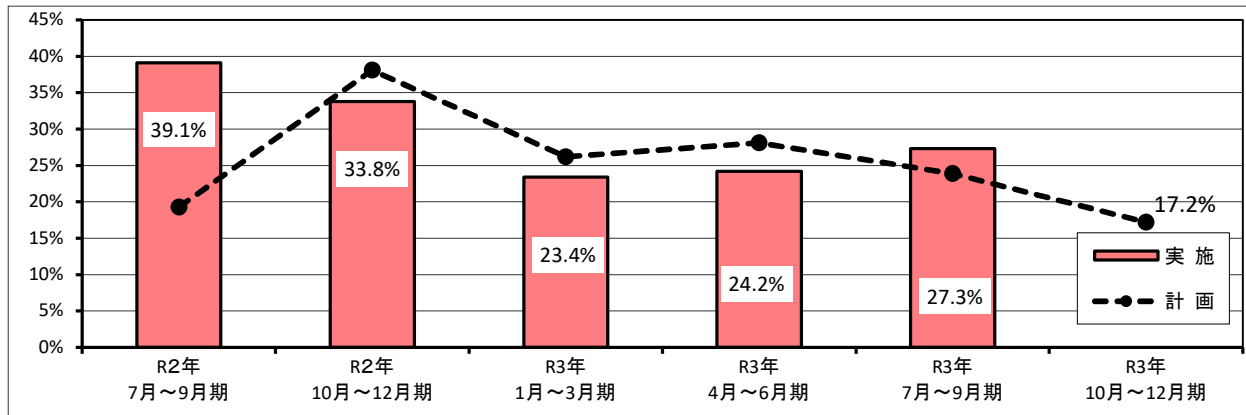
### 3. 各業種の景況

### (4) サービス業

② 設備投資の状況（当期中に行った設備投資の実施状況と来期の実施予定を集計）

設備投資を実施した企業数の割合は27.3%（前期比0.8ポイント悪化）であった。-

サービス業	R2年		R3年			(計画)
	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	R3年 10月～12月期
土地	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
車両・運搬具	24.0%	22.7%	26.7%	12.5%	22.2%	36.4%
サービス設備	40.0%	59.1%	60.0%	50.0%	44.4%	36.4%
設備投資の実施	19.3%	38.1%	26.2%	28.1%	27.3%	17.2%

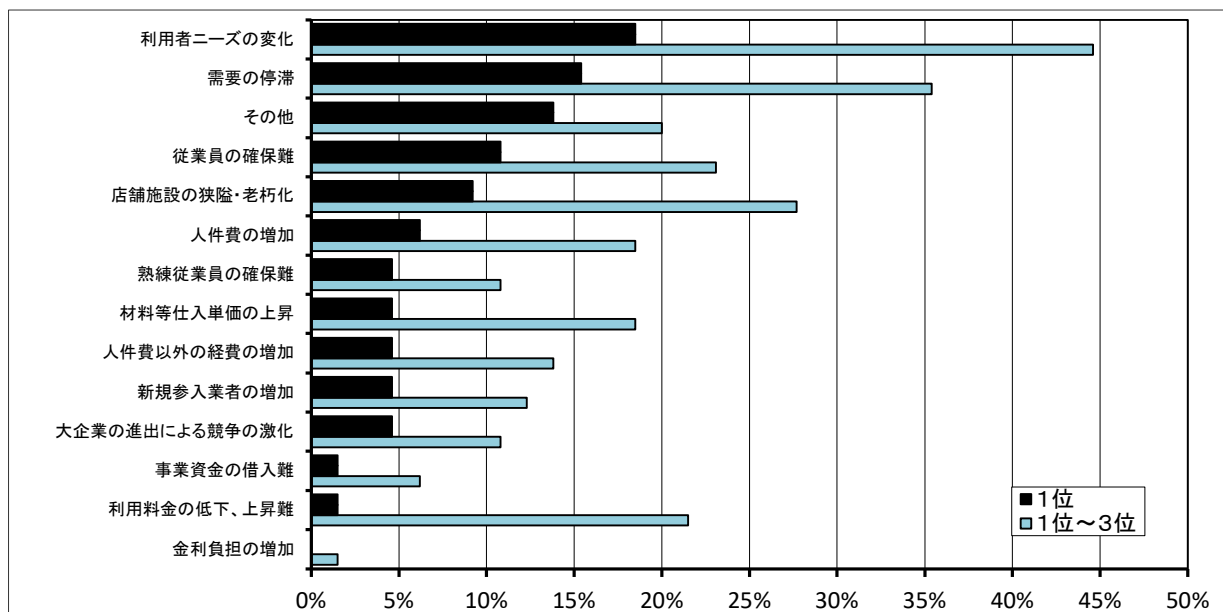


※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

※グラフ中の項目から1位～3位まで挙げられた問題点を1位及び1位～3位毎に集計を行った。

「利用者の変化」、「需要の停滞」、「その他」が上位となった。



(注) 問題点の1位に挙げた企業の割合

## 4. 自社の業況判断について感じている事 (調査対象企業の声)

業種	内 容
製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 依然としてコロナの影響によりパッケージ業界の低迷は続いている。また、この秋頃から資材の値上がりがあり、更に業況が悪くなりそうです。採算を上げる為、効率よく生産アップしたいが、ベテラン従業員が少なくなり思うようにはかどらず逆に生産が落ちている。</li> <li>■ リピート条件の減少はあるが、スポット、小ロット製品ニーズは継続して引合いがある。利益は向上しづらいが、粘り強く広く拾っていくつもりである。</li> <li>■ コロナ禍による不況が続くなか、今期は、業界全体が上向きになり、受注も増えた。しかし、コロナ感染者の増加、緊急事態宣言の発令の影響か受注が滞り始めた。来期が不安である。</li> <li>■ 悪いながらも新規案件がスタートしたり、大手メーカーとの商談が進んだりと大波小波で揺れていますが、どうにか未来に向けて今を頑張っているところです。</li> <li>■ コロナ禍により停滞していた工作機械、半導体受注が回復し受注量が一気に増加。しかしながら受注単価がコロナ前より高くなっており、利益は減少傾向にある。海外で半導体生産が停止している状況もあり、今後に不安を抱える。</li> <li>■ 業態変化が急速に進み、方向性が見えないとともに原材料の高騰が経営状態を圧迫している。</li> <li>■ 同じ製造業でも業界によって回復してきているところがあると聞くが、以前として弊社では低調が続いている。待っているだけではいけないと思うが、解決方法が見つからず暗闇の中を彷徨っている気分です。</li> <li>■ 大企業を除き全体的に見れば景気の上昇を感じない昨今ですが、社会を反面的に見れば、国民が少し財布を開放すれば景気のプラス要因にスイッチが入ると思います。政府に余り期待せず、自分も変わって行く必要があると思います。</li> <li>■ 霜害で収穫が遅れ、量も減った為、仕入れに頼らざるを得ない状況になり、仕入支払いが売上より先行してしまっている。海外出荷の納期が早まり、残業や休日も交替で行うことになり、人件費負担が増加している。</li> <li>■ コロナ禍にあって、様々なイベントが中止となり、今後の判断が非常に難しい。</li> </ul>
建設	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 前年度と比べ当社の応札できる案件が少なく、官公需等の停滞を危惧している。</li> <li>■ 材料、人件費の高騰が止まりません。現在、請負価格に反映できていません。</li> <li>■ 下半期が特にコロナ禍の影響を受けそうです。若干感じることは、下請の仕事量は減っているため、そのままの形で影響を受けているように思います。9月20日以降資材の値上げも決定しており不安が残るしだいです。</li> <li>■ 従業員の確保が難しいので、仕事量を増やせない。おのずと売上も下がってしまうので、従業員の確保に向けて何とかしたい。</li> <li>■ 材料価格急上昇と民間工事高の請負単価の減少のミスマッチがあります。技術者、技能者ともに不足している。</li> <li>■ コロナ禍で民間企業等の設備投資の鈍化が見られると思われる。このことで建設業界もかなり影響が出ているところ、どのように展開していけばいいのか、試行錯誤している。</li> </ul>

業種	内 容
小売	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般顧客の高齢化、コロナ禍による様々な規制で販売数量の低下が著しく、また、公共予算関係も厳しく思われます。当店は、この時期に顧客が強く要望しているものを販売できていない。何かが落ち着くか慣れて適合するまでかと。</li> <li>■ 度重なる緊急事態宣言により、飲食店の酒類の提供禁止のために大影響を受けている。</li> <li>■ コロナの影響で売上は、前年比の伸び率も減少傾向、下期は、ECサイトの販売計画、2階スペースフロアを改築も検討しているが、補助金支援も難しいことから計画が進められていない状況にある。巣ごもり対策が今後の課題と考えています。</li> <li>■ 市況は、ほとんど停滞しており、営業努力以前の問題で市場が動かない限りどうにもならない。コロナ収束以外に解決の方法がない。 新型コロナウイルス変異型が出てきて、先行き不安で波があり安定しない。</li> <li>■ 緊急事態宣言による、飲食店の酒類の提供禁止を止めていただきたい。</li> <li>■ 今までのお客様を大切にして、大型店にない細やかなアドバイスをモットーに頑張ります。</li> <li>■ お客様に対して個別対応している為、時間が不足している。ECサイトの販売を計画中である。</li> <li>■ 今期に関しては、前年のコロナ関係で停滞していた需要が動きだしたので売上増となっている。 来期に関しては、今のところはっきりとした見通しは立たないものの減少することは無いと思います。</li> <li>■ コロナ禍の影響でこれまでに無い来客数の減少となった。釣具製造サプライチェーン毀損により、新製品入荷に3ヶ月から6ヶ月を要しており、販売機会の失注等コロナの影響が大きく出ている。</li> <li>■ 人流の減少、消費者の通販の利用の増加で売上が減ったうえ、コロナ禍による自転車部品の価格が最大で12%アップが予定され仕入れ価格の高騰により経営が行き詰まる可能性がある。</li> <li>■ 従業員を削減したことで業績は好転している。</li> <li>■ コロナ禍も2年目になり去年は、国や京都府からの支援金や助成金で何とか営業ができていましたが、コロナも増々ひどくなり、商売人としては、まず感染しないことと、事業資金の確保が重要となる。</li> <li>■ 企業に自販機を設置し飲料水を販売している。テレワークで入社する従業員が減っているので売り上げが減少している。</li> </ul>
サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コロナの影響で対面販売の難しさが露呈してきた。それに加え、技術者の確保も問題解決が出来ていない。何とかして乗り越えたい。</li> <li>■ コロナ禍の中でサロンに行きたいと思われる方が減ってきていると思います。もう少し別の視点でオンライン化を実践していかないといけないと思っています。</li> <li>■ コロナ禍での対策が、次から次へと出されるためにお客様も迷われている様でご来店ニーズが今までと違ってきています。なので日々のお客様の来店数がわからないので困っています。</li> <li>■ 全てコロナ感染拡大の影響と思うが、今年1月よりずっと緊急事態宣言が続くなか、政策で人の集まりを規制されている事が大問題である。従って、打開策が見出せない。来年より始まる借入返済はかなり厳しいと思われる。</li> </ul>

業種	内 容
サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コロナ禍の影響で売上がかなり減少しました。協力金があるから持ちこたえています。</li> <li>■ コロナ緊急事態宣言が出されると売上に影響を及ぼし、積極的な宣伝も出来ず先の見通しがつかない。</li> <li>■ コロナの補助金で経営は成り立っているが、確実に売り上げは落ちているが、人材は大切なので給料を下げたりは出来ないから補助金がなくなった時、仕事量が戻ってればいいが、コロナ後の想像がつかない。</li> <li>■ 緊急事態宣言、まん延防止重点措置の影響が大きい。発令の都度に輸送依頼が減少、その為売上が低下している。病院の送迎が多いので、自身がコロナ陽性ともなれば営業を中止することも念頭におかなければならない。また救済もない。</li> <li>■ 上昇傾向であったのが、ここに来てコロナの影響、天候不順等で業績悪化。また、時短要請等の規制強化、緩和を繰り返した結果、緩和されて来客数は減ったままである。</li> </ul>



## 京都府商工会連合会

600-8009 京都市下京区函谷鉾町78番地

京都経済センター 3F311号室

TEL : 075-205-5418

FAX : 075-343-0373

E-mail : [office@kyoto-fsci.or.jp](mailto:office@kyoto-fsci.or.jp)